緑風だより

第94号
令和5年11月

発行　　障害者支援施設　さがみ緑風園
〒252－0328　相模原市南区麻溝台2－4－18
℡042－766－2255　URL　www.pref.kanagawa.jp/cnt/f488/
発行者　弘末竜久

令和５年11月８日発行

「職員実践報告会特別編『地域で自分らしく暮らす』～緑風園を退所した方からのメッセージ～」開催報告

生活第二課　氏家　拓勇

令和５年９月27日、当園を退所した渡邉さん、笠井さんを招き、実践報告会特別編を行いました。現在、緑風園を利用する全ての方が、地域生活への移行を検討していますので、興味関心も高く、利用者・職員・家族合わせて６１名もの参加がありました。

渡邉さんは、医療的ケアがネックとなり、私たち職員と一緒に暮らしの場を探す中で、大変苦労したことを思い出します。職員が次の１手を考えあぐねる中、ご本人がパソコンを駆使して探した施設が、現在の住まいである住宅型有料老人ホームでした。

「コロナが収まったら緑風園に行き今の生活を話したい」という渡邉さんの願いが、今回の講演に繋がっています。残念ながらリモートでの参加となりましたが「自分の目標を見失わず、年だからという考え方はせず、これでもかというぐらい欲張って、目標に向かってください」と精一杯語る渡邉さんのメッセージは、皆の心に強く響きました。

笠井さんがグループホームに移った当時は、老人ホームや障害者支援施設へ移行した方はいましたが、グループホームに移った方はいませんでしたので、職員も具体的な暮らしをイメージできずにいました。見学や話し合いを重ねる中で、グループホームは「自分の暮らしを自分でデザインできるところ」ということが解り、移行に繋がりました。

笠井さんからは「緑風園で洗濯は全くしませんでしたが、グループホームに行ってから習慣となりました」「デイサービスでは入浴や余暇、リハビリでは筋トレや体操をして体重も10kg以上減りました」「ヘルパーに相談すると、釣りに行く、野球を見に行く等、希望に沿ったプランを作ってもらい外出ができる」「できることは自分で行うという方針で、自分１人でコンビニに買い物に行きます」等、自由で主体的なグループホームでの暮らしが語られました。

生き生きと自分らしく暮らしている２人の話に真剣に耳を傾け、「自分はどのような暮らしがしたいか」ということに思いを巡らせ、希望を膨らませる貴重な時間となりました。

故郷に帰った、川崎芳和さん

６ホーム長　石津史博

北海道に生まれた川崎さんは、中学を卒業し就職のために上京しましたが22歳で事故により受傷され、以後40年以上故郷に帰ることはありませんでした。令和２年、そんな川崎さんに将来の夢を聞いたところ「本当は(北海道の生まれ故郷に)帰りたいよ」と話してくれました。このことを北海道苫小牧に住むお姉様にお話ししたところ、「私も帰ってきてもらえるなら、こんなに嬉しいことはありません」と言ってくださり、苫小牧近辺の特別養護老人ホームへの移行を目指すこととなりました。園の担当者が苫小牧市内の特養にしらみつぶしに電話をかけ、手ごたえのあった施設に現地のご家族が見学に行くという連携プレイの結果、昨年８月に２か所の特養に申し込むことができました。ところが、何か月経っても入所のお声がかかりません。そんな時、現地の関係機関と情報交換をする中で、身体障害者入所施設への移行も可能との情報が入りました。さっそく苫小牧近辺の２か所の施設に問い合わせ、川崎さんが入所対象となりそうだとのことで、ご家族が施設見学に。それが今年の７月のことです。「姉や姪がいる生まれ故郷で暮らしたい」と言う強い想いを、川崎さん自ら電話口で施設の担当者様に伝え、その想いと熱意が届いたのか、８月には身障施設「樽前かしわぎ園」への入所が決まりました。

移行日は９月25日となりましたが、さて、北海道までの交通手段をどうするか？川崎さんの体力的には移動時間が短い飛行機がベストですが、受傷後、飛行機はおろか電車にも乗った経験はありません。ホーム長である私が川崎さんと二人で北海道まで行くと決まった時には、正直不安でしかありませんでした。航空会社と何度もやり取りをして飛行機搭乗までの段取りを確認。また、川崎さんには航空機用ストレッチャーの使い方や、飛行機が離陸する動画で説明し出発に備えました。そして、９月25日早朝６時、川崎さんはほんの少し寂しさの表情を見せながら羽田空港に　向かいました。空港スタッフや介護タクシーの連携も素晴らしく、14時、無事に樽前かしわぎ園に到着。お姉さまと姪御さんに迎えられた時の安堵と何とも言えない川崎さんの笑顔。これほどまでの笑顔を見たことがありませんでした。

数日後、樽前かしわぎ園の職員から手紙が届きました。「（前略）川崎さんは、入所時同様、にこやかに、穏やかに過ごされております。 (中略)川崎さんに「お礼のお手紙を書こうか？」と提案し、川崎さんより、『皆に宜しくって書いてくれ。嬉しかったよって書いてくれ。元気だよって書いてくれ。北海道に遊びに来てって書いてくれ』と、顔をクシャクシャにして言っておりましたので、きっちりと、伝言しておきます。草々」

利用者さんの気持ちに沿える、そんな仕事をしたい。そんな想いで６ホームは今日も元気で頑張っています。

通所している方へのインタビュー

現在緑風園では、利用者様がより充実した生活を送ることができるように、園外のサービスを積極的に活用しています。日中、園外で過ごしている方にインタビューをしてきました！

毎週水曜日に通っていて、４時間半くらい過ごしています。他の利用者と悩みを相談し合ったり、今後の生活について話したり、TVや音楽を聞いて過ごしています。男女問わず色々な方とおしゃべりできるところ、園ではあまり聞かない流行りの曲などを聞けるところが楽しいです。（７ホーム 志村さん）

毎週木曜日に通っていて、５時間くらい過ごしています。一日体験をしてみてやってみたいと思ったので始めました。はがきやクッキーを作って過ごしています。クッキー作りの、型抜きが楽しいです。年上の人も年下の人もたくさんいて、休憩時間におしゃべりをすることが楽しいです。週に一回は通いたいと思っています。（女性利用者）

編集後記　７ホーム　生沼・渡邊

秋を感じる季節になりました。
季節の変わり目は体調を崩しやすいので
体調に気を付けてお過ごしください。